

I 2017年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2017年度大学評価結果総評】

スポーツ健康学部は教育への学生の満足度が全学のトップクラスにある優良学部だが、その健全な状態を維持し拡大するためにも、『自己点検活動と質保証の制度化を実現させて PDCA サイクルを廻すことで現在の学部運営を恒常的に実現することが望まれる』という指摘に対して、質保証委員会が設置され、活動が行なわれた。3 コースのコース長が質保証委員となり年 5 回質保証委員会を行なったこと、執行部作成の自己点検評価用紙の内容と実践された活動を審議し教授会で指摘したことはともに評価できる。今後は、より具体的な質保証活動を期待したい。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

昨年度卒業生アンケート調査や学生アンケート結果において、ほぼ例年どおりの評価となっているので総評の健全な学部運営が維持されている状態であると判断しており、昨年度と同様の取り組みを行った。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

スポーツ健康学部は、卒業生アンケート調査報告書等からも、学部満足度が高く、教育内容やカリキュラム、設備に関する満足度も高く、少人数による質の高い教育が展開されている。

但し、中期目標には「2018年度から始まったカリキュラムの質保証に努め」と記載されているが、自己点検・評価シートには2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況として、「昨年度と同様の取り組みを行った。」とのみ記述されており、新カリキュラム策定や具体的な質保証への取り組み内容が記述されていない。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【理念・目的】

スポーツ健康学部は、従来の体育学および健康科学を基礎として、それらの知見を応用できるスポーツビジネスも視野に入れた学問体系である「スポーツ健康学」の教育と研究を通じて、公共の福祉に貢献する教養ある社会人を育成することにより、誰もが充実したスポーツライフと健康増進の機会を享受できる豊かな社会の構築をめざす。

【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的】（教育目標）※学則別表（11）

1. スポーツ健康学部は、既存の枠を超えたウェルビーイングの教育研究を発展させることを社会的使命とし、わが国そして地域社会のスポーツ振興と個人の健康づくりに貢献できる人材を養成する。
2. 単なる知識の集積に留まらず、体験学習を重視した実技・実習科目によって、最新の健康科学理論と整合させながら、実社会で十分に活躍できる実践知および実践力を身につけた人材を養成する。
3. スポーツコーチング、ヘルスデザイン、スポーツビジネスに関する知識を独立して学ぶだけでなく、これらを相互に関連づけ幅広い知識を組みあわせることで、自ら問題解決へと導く能力を涵養する。

①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。

はい いいえ

②学部（学科）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。

はい いいえ

③理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

（～400字程度まで）※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

この評価シートを利用することで、4月末～5月初旬にかけて執行部会議で検討し、その後質保証委員会の意見を聞いた上で、教授会で報告している。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。

はい いいえ

②どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(～400 字程度まで) ※具体的な周知・公表方法を記入。

スポーツ健康学部履修の手引きの配布および春学期のオリエンテーション時に学生へ周知し、大学のホームページにも掲載することで社会に対して公表している。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部においては、学部として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が適切に設定されていると判断される。また、それらは、大学の理念・目的を踏まえて設定されている。理念・目的の適切性の検証も学部内の協議を経て検証されている。それらの理念・目的は、学則等に明示されており、履修の手引きによって、学生に周知するとともに、大学のホームページに掲載し、社会に対して広く公表されている。

2 内部質保証

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム(質保証委員会)を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2017年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

- ・構成：各コースのコース長がこの任を担う。
- ・開催日と議題：2017年5月22日質保証委員会(議題；執行部作成の自己点検シートおよび執行部運営について検討した)、2017年5月23日教授会(議題；自己点検に関する事項を検討し承認された)。2018年3月12日質保証委員会(年度目標評価について検討した)、2018年5月13日教授会(議題；年度目標について承認された)。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部質保証委員会は、学部内の各コースのコース長(3名)により構成され、年度当初と年度末に開催され、自己点検に関する事項について協議し、その結果が、教授会において承認されている。但し、質保証委員会で協議された内容が学部の運営にどのように反映されたのか、その記述がない。今後は質保証委員会の形式的ではなく、実質的な活動を期待したい。

3 教育課程・学習成果

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【学位授与方針】

スポーツ健康学を教育研究する事により、我が国のスポーツ振興と健康づくりに貢献できる人材を養成する。また、知識の集積に留まらず実務能力と研究能力を身につけ、卒業後は社会で十分活躍できる能力を涵養する事を目的にしているため下記の能力を備えた学生に学位を授与します。

1. 豊かな社会性と人間性を支える広い教養を身に着けている。
2. スポーツ健康学の学問内容及び方法を理解している。
[知識・理解力]
3. 自ら設定した課題について、スポーツ社会科学・健康科学・スポーツ科学のいずれかの学問領域の研究方法を用いて、考察することができる。
[思考力・判断力・表現力]
4. スポーツ健康学の知を実践の力へと高めることができる。
5. 社会における自分の役割を自覚することができる。
[関心・意欲]
6. スポーツ健康学の知を持って地域社会のニーズに応えることができる。
7. 生きた文化や生きた社会を創る事に寄与できる。
[態度]
8. 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によつて的確に伝えることができる。
[技能]

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

1. 学部の掲げるディプロマ・ポリシーを達成するために、5つの科目群を配置し、系統的履修を促します。
[知識・理解力]
 - ・人文社会系の科目から、自然科学系の科目まで、学部の学生として基礎となる幅広い科目を学びます。又、学習に対する姿勢、生涯にわたり学ぶことの必要性を理解し実践できるようにする。[視野形成科目群]
 - ・専門的な科目を履修するためのスポーツ科学や健康科学の基礎となる科目から、スポーツの構成要素とし欠かせないスポーツ社会学まで幅広く科目を配し、健康と社会との関わりを習得できるようにする。[専門基礎科目群]
 - ・コース科目を受講する前提として、専門科目の3つのコース科目の土台となる科目を配し、1つのコースに偏ることなく学際的な領域を学ぶことができる。[専門基幹科目群]
 - ・ヘルスデザインコース（健康の増進）・スポーツビジネスコース（生涯スポーツ社会の実現）・スポーツコーチングコース（スポーツの指導）それぞれの領域を学ぶことができる。[専門科目群]
 - ・3つのコース科目で習得した理論的な知識を集大成した上で、討論や発表を通して、これまで習得した理論を自分の物として具体的な諸問題への対処方法、課題解決方法を身に着ける。[専門演習]
2. 学生の学習能力の発達状況に合わせた段階的な科目配置を行っています。
[思考力・判断力・表現力]
 - ・初年時においては視野形成科目において学習に必要なスキルを学びます。
 - ・スポーツ健康学の先端的な教育研究を理解するために必要な英語力を養成します。
 - ・コース共通の科目群を設定し、所属する全学生が「スポーツ健康学」の基礎となる体育学、健康科学、スポーツビジネスの基礎知識を涵養する事を目指します。
3. 各学生が自ら希望・選択する分野でより専門的履修が行えるコース・プログラム別の教育課程を整備し、すべての学生が3コース・プログラムを選択する枠組みを設定します。
 - ・ヘルスデザインコース(健康の増進)
 - ・スポーツビジネスコース(生涯スポーツの実現)
 - ・スポーツコーチングコース(スポーツ指導)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

[関心・意欲]

4. スポーツ健康教育の知見は、豊富な実技・実習を通じた体験学習によって会得します。

[技能]

・設定された目標課題にむけ、幅広い視点から、考察を加え、学内外の施設を利用した実技・実習科目を豊富に設定し、多角的に準備された場によって鍛い上げ、社会に貢献できる人材を育成します。

5. 大学教育における小集団教育の重要性を鑑み、1年次から4年次まで演習を開設し、勉学への動機付けや専門性の徹底を図るとともに、仲間意識や教員との人格的接触機会の増大に役立てます。

[態度]

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい いいえ

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。

・教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、毎年春学期開始時に履修の手引きに掲載し学生に周知するとともに、ホームページでも公表している。 ※冊子名称やホームページURL等。

・2017年度スポーツ健康学部履修の手引き

・スポーツ健康学部専門演習募集要項 2017・2018

・URL：<https://www.hosei.ac.jp/sports/shokai/index.html>

③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

S A B

(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。

4月に執行部が昨年度の実施内容を自己点検評価シートに基づき素案をまとめ、5月初めに質保証委員会が素案を検討し、5月中旬の教授会に報告し再度検証し議論するプロセスをとっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・質保証委員会議事録、5月第3回教授会議事録

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

視野形成科目、専門基礎科目、専門基幹科目、専門科目、専門演習科目と段階的に用意されている。入学した学生全員が豊かな人間形成に基づく土壌の上に、体育学や健康学の基礎を中心にした根を張り、幹を育て、自分の興味・関心に合わせた特徴的な枝に自分だけの花実をつけるための4年間を過ごしてもらえようカリキュラムを構成している。

【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

・<https://www.hosei.ac.jp/sports/gakka/curriculum.html>

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

S A B

(～600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

学習に対する姿勢や生涯に亘って学ぶことの必要性を学ぶ「視野形成科目」や多彩な専門家のもとで学ぶ「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門科目」「専門演習」の段階的かつ体系的な学びを通して、一貫した学習を実践する。特に演習科目においては、徹底した少人数教育を実践し、1年次の「スポーツ健康学入門」で大学生としての基本的な学び方や学習への動機づけを理解し、2年次以降の「専門演習」で専門性を身につける。また当学部は2年次において「ヘルスデザインコース」「スポーツビジネスコース」「スポーツコーチングコース」の3コースから将来を見据えたコースを選択し、より専門性の高い授業を受講できるカリキュラム編成としている。更に専任教員のゼミナールに参加することで高い専門分野の学問を学ぶことができる体制下にある。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部ホームページ https://www.hosei.ac.jp/sports/gakka/curriculum.html ・2017年・2018年度専門演習募集要項 	
<p>③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>「人間とスポーツ」、「生命倫理」などの人文社会系の科目から、「統計学」、「情報リテラシー」といった自然科学系の科目まで、本学部の学生として基礎となる幅広い科目を用意している。また、1年次に必修として用意されている「スポーツ健康学入門」では、大学生生活への適応力を身につける。専門的な科目を受講する前提として、体育学及び健康科学分野の基礎となる「スポーツ運動学Ⅰ」、「機能解剖学」などの科目から、「スポーツ哲学」、「スポーツマネジメント論」などの科目まで幅広く配し、健康科学と社会との関わりを習得できるよう配慮している。コース科目を受講する前提として、専門科目の3つのコース科目の土台となる科目を配し、1つのコースに偏ることなく学際的な領域を学ぶことができるよう配慮している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学スポーツ健康学部 設置の趣旨等を記載した書類 	
<p>④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育としては、「スポーツ健康学入門」を初年次春学期の必修科目とし、大学施設案内から始まり、課題調査の仕方、まとめ方、プレゼンテーションの仕方、ディスカッションの在り方など大学の専門科目を履修するために必要な能力を養う科目を設けている。また付属校あるいは要請のあった高校へ教員を派遣し、模擬授業を通し大学講義の一部を提供している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度スポーツ健康学部シラバス 	
<p>⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提携校である米国のボイシー州立大学への短期留学を毎年実施している。 ・ERP あるいはグローバルオープン科目を開設し運営した。 	
<p>【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生推薦入試により本学部で初めての留学生が入学した。今後は、留学生の受け入れ体勢を充実していきたい。 ・外国人教員および留学経験をもつ教員が採用され国外の最新情報が教育に反映されることが期待できる。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
<p>⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>キャリア教育としては、教員がスポーツ・健康関連企業に関する情報提供や、「専門演習」「実習科目」を通してのインターンシップの奨励、サポートを行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
<p>3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
<p>①学生の履修指導を適切に行っていますか。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生への履修指導は、学年ごとに「新年度ガイダンス」「春学期終了ガイダンス」「秋学期終了ガイダンス」を開催している。各種資格については個別の「資格ガイダンス」を行い、必要に応じて学年を分けるなどきめ細かな指導に取り組んでいる。 	
<p>【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・本学部で取得できる資格のガイダンス（教員資格、AT資格、健康運動指導士資格など）を担当教員とこれらの資格を目指す上級生が主体となり春学期に企画し実施した。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2017年度スポーツ健康学部履修の手引き</p>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>通常授業・演習を問わず、授業内容が当学部の学生に共通する進路に関係するような場合は、学習意欲や進路を考える際の一助となるよう、公開授業にするなどの工夫をしている。また「専門演習」においてはインターンシップや現場実習も取り入れ、社会と密接に関わっているスポーツ・健康分野ならではの学習研究と、将来の目標設定を実践の中で並行しながら考えられるよう、多様な場や機会を設けている。また各教員のオフィスアワーを明確にしている。それ以外の時間も、学生の研究室への訪問が容易になっており、履修相談・進路相談に随時、適切な対応を行っている。欠席の多い学生や、提出物に不備が多い学生には連絡・面接等を行い、学生の状況を常に把握するよう努めている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>学生の学習時間（予習・復習）の確保については、シラバスの内容に沿って適宜、促している</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2017年・2018年度シラバス</p>	
④1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【履修登録単位数の上限設定】 ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。</p> <p>年間42単位（半期22単位までを目安とする）の上限を設定している。</p> <p>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】 ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。</p> <p>学生が再履修科目を選択すると年間49単位までと設定している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2017年・2018年度履修の手引き</p>	
⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <p>・特に実習科目においては、学生自身が考え、実践する中で知識や情報を得たり、学生同士で相互評価をするなどの活動を通して学習を深められるよう取り組んでいる。</p> <p>・授業前に簡単な質問をすることで、これから学ぶ内容の現在の理解度を自覚させている。</p> <p>・演習科目については、自ら課題を選択し、調査し、報告することを課題とし、学生主体のアクティブな学習形態としている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑥それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>・専門演習では1学年あたり10名前後の人数で編成されることを原則としている。</p> <p>・機材を必要とする実習あるいは実験科目では事前に人選し履修人数を調整している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2017年・2018年度シラバス、履修の手引き</p>	
⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <p>・シラバスは、教員の専門分野において学生のレベルに沿った内容とするよう作成している。</p> <p>・シラバスが作成基準を満たしているかのチェック項目を作成し、教務委員会で分担し全教科のシラバスを調査し修正依頼をしている。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会からのシラバスチェック報告を教授会で確認し承認を得ている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度教授会議事録 	
⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、健康のジャンルは現代社会に密接に関連していることから、実際の授業ではタイムリーなテーマを取り上げることもあるが、最終的には授業全体として目的に合致しているか否かを判断し、授業改善アンケート等を参考に、より適切な内容となるよう各教員が取り組んでいる。 ・教職をはじめとする各種資格取得のために必要な科目については、資格ごとに必要な内容が授業に盛り込まれているか否かの確認を行っている。 ・また教員相互授業参観を行い、授業内容の確認を実施している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケート結果報告書（学部長報告資料） 	
3.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価と単位認定については、各教員がシラバスの成績判定記載に基づいて適切に行っている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<u>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</u> 他大学あるいは他学部からの転入生における既修得単位の認定についての内基準は明確に定めてはいないが、シラバスの内容を本学部の授業内容と照合し、担当教員と相談の上、教授会で詳細に検討して承認を得ている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<u>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価を筆記試験だけでなく、通常授業時の小テストやアンケートなど、常に学生からのリアクションを得ることで、理解度とともに物事に取り組む姿勢なども総合的に評価している。 ・科目毎のGPAを提供し、成績評価の偏りを教員が把握するようにしている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・2017年・2018年度シラバス 	
④学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・1年生から3年生は取得を希望する資格の調査を行っている。 ・4年生については、進路希望・内定獲得先・最終的な進路を4月のガイダンス、夏休みに入る前、冬休みに入る前の3回調査を行い、集計結果を教授会において共有している。 ・最終的な就職情報はキャリアセンターからの報告を得て教員に周知している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・教授会資料 	
3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・成績分布、科目毎の不合格者、進級状況については集計しその情報資料を教授会において共有している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・教授会配付資料 	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>各コース毎に学年別成績一覧を提示し、GPA の分布などの情報を教授会で共有し、各コース毎に学習成果を確認している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度教授会資料 	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入 (取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度の初めに、前学年で開講された必修科目の内容について「専門知識習熟度テスト」を実施している。 ・教育成果の定期的な検証を行い、学習成果については、特に学生の課外活動等における自主的な取組への参加、また卒業研究の発表会によって行っている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入 (取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年別の成績一覧表を作成し、教授会で配布している。 ・上記項目で回答したように必修科目について「専門知識習熟度テスト」を実施している。 ・また専門演習Ⅲでは、優秀発表者を選出して表彰している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度教授会資料 	
<p>3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学年別の成績経過を一覧表にして、成績の変遷を視覚化し検証している。 ・特に問題と思われる学生に対してはゼミ担当教員あるいは執行部教員が個別指導を実施している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度教授会資料 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【利用方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生がウェブ上で回答した授業改善アンケートの結果は執行部が確認し、必要に応じて対応するようにしている。 ・自由記載された学生の意見などの情報は、教授会で共有している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・前年度からの課題であるオンデマンド授業の取り組みが遅れている。	
・留学生の受け入れが遅れている。	

【この基準の大学評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

①方針の設定に関すること (3.1～3.2)

スポーツ健康学部では、修得すべき学習成果、その達成のための諸要件を、明示した学位授与方針として適切に設定されている。また、学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針が適切に設定されていると評価できる。さらに、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針について、履修の手引き等において、周知・公表されており、それらの適切性と連関性について、質保証委員会や学部教授会で検証が行われている。

②教育課程・教育内容に関すること (3.3)

スポーツ健康学部の学位授与方針について、学生が涵養すべき能力を8つの視点から具体的に明示している点が評価できる。また、学部が掲げる学位授与方針を達成するために、5つの科目群を配置し、系統的履修を促している。そして、学生の学習能力の発達状況に合わせた段階的な科目配置を行なうとともに、学生が自ら希望・選択する分野でより専門的履修が行える3つのコース・プログラム別の教育課程を整備している。初年次教育では「スポーツ健康学入門」を必修科目として配置し、高大接続については、付属校や要請のあった高校へ教員を派遣するなどして行われている。

学生の国際性を涵養するために、米国のボイシー州立大学への短期留学が実施されている。また、昨年度、留学生推薦入試により、初めて留学生が入学している。今後さらなる受け入れとその支援体制を拡充し、グローバル化の推進への取り組みが求められる。キャリア教育としては、各教員による情報提供などの取り組みがなされているが、もう少し組織的な取り組みについて検討することを期待する。

③教育方法に関すること (3.4)

スポーツ健康学部の履修指導や学習指導について、学年単位や学生の状況に応じて丁寧に行われている。特に、2017年度は、取得できる資格のガイダンスを担当教員とこれらの資格を有する上級生が主体となって企画し実施したことは、学生のモチベーションを高めることにつながり、高く評価できる。その他、学習時間を確保するための方策、履修登録単位数の上限の設定、授業形態に応じた学生数の配慮など、教育方法に関する対応も適切に実施されている。効果的な授業形態の導入として、実習科目や演習科目で学生主体のアクティブ・ラーニングの形態がとられている。

シラバスが適切に作成されているかについては、教務委員会によるシラバスチェックが行われており、その結果が教授会に報告されている。また、授業がシラバスに沿って行われているかについては、

授業改善アンケートや教員相互授業参観を行い、検証に取り組んでいる。

④学習成果・教育改善に関すること (3.5～3.7)

スポーツ健康学部の成績評価と単位認定は、各教員がシラバスに記載された判定基準に基づいて適切に行われている。他大学等における既修得単位の認定は、授業科目毎に担当教員と相談の上、教授会で検討し、承認している。厳格な成績評価を行うため、科目毎のGPAを活用し偏りがなにか検証するなど適正な評価と単位認定を行うように努めている点は評価できる。学生の就職状況は、キャリアセンターからの報告を共有している。また、成績分布、科目毎の不合格者、進級状況に関するデータを教授会で共有化し、各コース毎に学習成果を確認するなど、学習成果の検証に努めている。特に、年度初めに前学年で開講された必修科目について、「専門知識習熟度テスト」を実施しており、学習成果を測定する指標として学習効果を客観化した教育方法の改善に取り組んでいる点は、高く評価できる。

学生による授業改善アンケート結果は、執行部が確認し、自由記述欄の学生の意見は教授会で共有されている。

4 学生の受け入れ

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

スポーツ健康学部では、スポーツと健康に幅広い関心を持ち学習(学修)・研究を通じて社会に積極的にかかわる意欲を持つ、下記の能力を備えた受験生を、各種選抜試験を通じて入学させます。

1. 入学後の就学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。

[知識・理解・実技能力]

- ・高等学校で履修する国語・英語・数学・地理歴史・公民などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・スポーツ・体育などに関して、修業に必要な実技能力を有している。

2. 物事を多面的かつ論理的に考察することができる。

[思考力・判断力]

3. 自分の考えを的確に判断し、伝えることができる。

[技能]

4. スポーツ、人間、文化にかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。

[関心・意欲]

5. 積極的に他者とのかかわり、対話を通じて相互理解に努めようとする態度を有している。

[態度]

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

4.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

- ・2016年、2017年度は超過傾向にあり、2018年度も184名と超過している。これは近年合格者で辞退する者が減少したことに起因する。
- ・2018年度は、超過基準を超えたことにより私立大学等経常費補助金不交付措置対象となった。
- ・しかしながら本学部の入学定員充足率は5年間平均で1.06であり適切な収容であると捉えている。今後も求める学生像・修得しておくべき知識等の内容・水準について学部パンフレットにより周知を計りながら継続していきたい。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・教授会資料、入試委員会資料

定員充足率 (2013～2017年度)

(各年度5月1日現在)

種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均
入学定員	165名	165名	165名	165名	165名	
入学者数	167名	162名	171名	191名	184名	
入学定員充足率	1.01	0.98	1.04	1.16	1.12	1.06
収容定員	615名	630名	645名	660名	660名	
在籍学生数	704名	666名	642名	698名	717名	
収容定員充足率	1.14	1.06	1.00	1.06	1.09	1.07

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】 ※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20以上	1.25以上
上記以外の分野	1.25以上	1.30以上

【定員未充足の場合】

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9未満	0.8未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20以上	1.17以上	1.14以上	1.10以上

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

収容定員超過率	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上			
4.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。							
①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。					S	A	B
(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 ・入試経路別に成績 GPA を集計し、この結果を教授会で共有している。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017 年度教授会資料							

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
近年入学試験合格者の辞退者数が減少しこのため、入学者数が基準を超過した。	

【この基準の大学評価】

<p>スポーツ健康学部では、学生の受け入れ方針について明確に定め、学部パンフレット等によって広く公表している。スポーツ健康学部の入学定員充足率は、5年間平均で 1.06 であるが、直近の 2016 年度から 2018 年度の入学生が超過傾向にある。これは、「合格者の内、辞退する者が減少したことに起因する」とされており、今後は、より詳細な分析に基づいた定員充足率の改善に期待したい。学生募集と入学者選抜の結果について、入試経路別に学生の GPA を集計し教授会で共有しているが、その結果を基に改善や向上に向けた取り組みが行われていないので、積極的な対応が望まれる。</p>
--

5 教員・教員組織

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。		
【求める教員像および教員組織の編制方針】(2011 年度自己点検・評価報告書より) 設置審査の過程で十分に検討されており、完成年度までは以下の教員組織で運営する。 本学部には、スポーツ科学の研究者をはじめ、わが国を代表するトップアスリートとしての経験を持つ指導者や総合型地域スポーツクラブの推進者、医師、理学療法士、鍼灸師、アスレティックトレーナー等の資格を有する健康科学者など多彩な人材、18 名が専任教員として就任している。また、専任教員 18 名のうち、8 名については学内からの移籍者であり、その多くは平成 17 年度より本学がスポーツ文化の担い手を育成することを目的に開設した、学部横断プログラム「スポーツ・サイエンス・インスティテュート (SSI)」での教育を実践してきた経験者である。なお、専任教員には大学において教育研究経験を実践してきた者、社会的な経験を有する者の他にも、博士の学位を取得している者が 4 名と医師免許を有する者が 2 名おり、学部として研究機能を果たすための業績を有する教員が確保されている。期待される教員像として、スポーツ、医科学の知見に秀で、かつ豊富な実践指導経験有し、資格取得に関しても適切な助言を与えることが出来、加えて教学に関わる運営全般にわたり積極果敢に取り組む意欲ある人材を求めている。		
①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。	はい	いいえ
【根拠資料】 ※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。 ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準、スポーツ健康学部教授・准教授の任用(昇格)に関する基準を設けている。		
②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。		
【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】 ※箇条書きで記入。		

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

- ・学部執行部は、学部長、教授会主任、教授会副主任で構成している。
- ・学部内委員会として教務委員会、資料室委員会を含む8つの委員会を設置している。

【明示方法】※箇条書きで記入。

- ・教授会資料各種委員会一覧表で明示している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・スポーツ健康学部教授会 各種委員一覧

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。 はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

- ・学部設置認可に至る過程で教員それぞれが担当科目について審査を受け、「ヘルスデザインコース」「スポーツビジネスコース」「スポーツコーチングコース」の3コースにおいて、それぞれに相応しい専門分野を持つ教員が均等に配置され教員組織が編成されている。
- ・2017年度は新規教員を3名募集し、各コース毎の適任者が赴任した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各コース別の教員組織構成表

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。 はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

- ・2016年度に開設した大学院（スポーツ健康学研究科）は学部で教育したスポーツ健康学を深化するため、学部の教員のほとんどが関わっている。
- ・今後、学部教育と大学院教員がさらなる連携を進めるべく教員組織を改編していく。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・大学院教授会資料

2017年度専任教員数一覧 (2017年5月1日現在)

学部（学科）	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
スポーツ健康	13	2	3	0	18	14	7

専任教員1人あたりの学生数（2017年5月1日現在）：39.8人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 はい いいえ

【特記事項】(～200 字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・教員の採用・昇格の基準等については、独自に内規を策定し、教員の資格要件をふまえて、求める能力、資質等を明らかにしている。
- ・ただし女性教員比率の改善が課題である。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

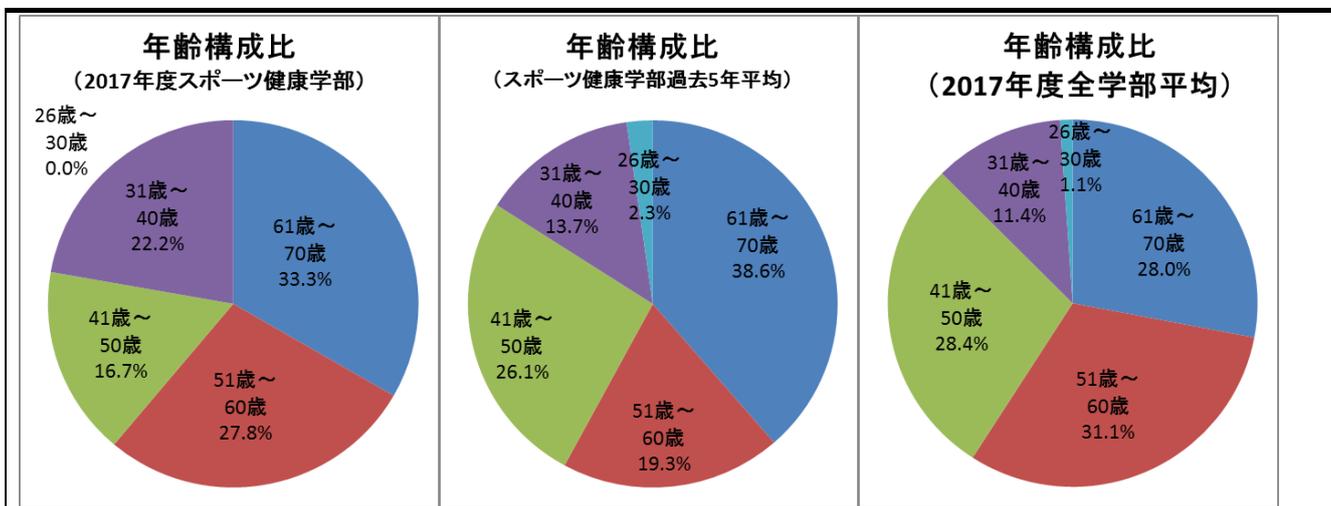
- ・特になし

年齢構成一覧 (2017年5月1日現在)

年度\年齢	26～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳
2017	0 人	4 人	3 人	5 人	6 人
	0.0%	22.2%	16.7%	27.8%	33.3%

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。



5.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準、スポーツ健康学部教授・准教授の任用（昇格）に関する基準が整備されている。

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】 ※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することでも可。

- ・専門分野や年齢構成等、偏った教員構成にならないよう、委員会設置→候補者選定→業績審査→教授会決定という一定の過程を設けている。
- ・2018年度の体制に備えて採用3名の人事を決定した。

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。

- ・大学のFD委員会の意向を受け、執行部が中心となり進め、質保証委員会が評価し、教授会で承認を得ている。

【2017年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。

- ・2017年5月23日、B、C会議室、自己点検評価シートについて、18名
- ・2018年3月13日、B、C会議室、2017年度自己点検活動について、18名

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2017年度教授会資料

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部の教員の採用、昇格等について、学部の教員組織の編制方針に基づき、求められる能力・資質等が明らかにされている。そして、採用や昇格において、その基準等について各種規程が策定されており、適切に実施されている。組織的な教育を実施する上で要な役割分担、責任の所在を明確化した執行部の構成や学内委員会が明確にされている。

学部のカリキュラムに沿ってコース毎に教員が配置され、教員組織が適切に編制されている。学部教員の大半が大学院

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

教育にも携わっているが、学部教育と大学院教育との連携は明確ではなく、今後の具体的な取り組みを期待したい。
 教員の年齢構成に著しい偏りは見られないが、女性教員の比率が低く、ジェンダーバランスの観点からも今後の改善に期待したい。教員の募集や任免・昇格に関わる基準は整備されており、適切に運用されている。
 学部内の FD 活動は、年度の初めと終わりに行われているが、FD チャート報告書の記述内容の形式的なチェックにとどまっており、より実質的な活動を期待したい。

6 学生支援

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。 はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※簡条書きで記入。
 ・退学・留年については、教授会において正確に把握し情報を共有している。
 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
 ・2017 度 在籍異動および在籍者報告

②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。 S A B

(~400 字程度まで) ※修学支援の取り組みの概要を記入 (取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど)。
 ・1 年生は 20 名前後のクラス分けを行いチューターにより修学支援を実施している。
 ・2~4 年生は所属しているゼミの教員が修学支援を担当している。
 ・専任教員はオフィスアワーを設け、漸次学生の質問などに対応している。
 ・資格取得のための試験対策補修授業を実施した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
 ・特になし

③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。 S A B

【成績不振学生への対応体制および対応内容】※簡条書きで記入。
 ・成績が不振な学生については、科目担当教員から事務を通して執行部に報告され、個別に対応している。
 ・一般的に成績不振な学生はゼミ担当教員が、ゼミに所属していない学生は執行部が担当している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
 ・特になし

④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。 S A B

(~400 字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。
 留学生推薦入試で 2018 年度より本学部初めての留学生が 1 名入学予定である。これに対し事前情報を健康学入門のゼミ担当教員に連絡し、配慮を依頼した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
 ・特になし

⑤学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。 S A B

(~400 字程度まで) ※学生の生活相談に関する取り組み概要を記入。
 学生の相談窓口としては事務、科目担当教員、ゼミ担当教員、執行部など窓口を特定せず話やすい人に相談できる体制をとっている。相談された教職員は、執行部に報告し、執行部会議で検討し教授会で対応を依頼するシステムになっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
 ・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部の学生支援について、退学・留年等については教授会で正確に把握し情報は共有化されている。学生の修学支援については、1年生はクラス分けによるチューター、2～4年生は所属ゼミ教員により、各学年毎に適切に実施されており、成績不振学生への対応なども同様に適切に実施されている。また、学生の生活相談については、事務、科目担当教員、ゼミ担当教員、執行部など多様な窓口を設け、相談できる体制が整っている。2018年度に初めて留学生が入学しており、適切な修学支援や生活相談がなされることを期待したい。

7 教育研究等環境

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。	
①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※教育支援体制の概要を記入。	
・TAは基本的には必修科目で担当教員が必要と判断した場合に教授会の承認を得て配備している。	
・専門性の高い実習科目には技術スタッフを配備している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・2017年度教授会資料	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部では、必修科目について担当教員が必要と判断した場合、教授会の承認を得て、ティーチング・アシスタントを配備するとともに、専門性の高い実習科目には技術スタッフを配備するなど教育研究支援体制が適切に整備されている。

8 社会連携・社会貢献

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。	
①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。	
・スポーツ研究センター・NPO法人法政クラブとともに地域住民を対象にした公開講座を実施している。	
・NPO法人法政クラブ・エスフォルタアリーナ八王子と連携し、公開講座を実施している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

<p>スポーツ健康学部では、スポーツ研究センター、NPO 法人法政クラブ、エスフォルタアリーナ八王子との連携協力による地域住民を対象とした公開講座を実施しており、学部の教育研究活動の特徴を活かした社会貢献活動が行われていることは評価できる。</p>
--

9 大学運営・財務

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。	
①学部長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～200字程度まで) ※概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部長、主任、副主任で執行部を組織している。 ・学部全教員により教授会が組織されている。 ・各コースにはコース長を設け、執行部とコース長で教務委員会を設けている。 ・学部長の任期は2年で、任期毎に規則に沿って選挙を行っている。 ・学部内委員会とともに教授会内規を整備し規則に則った運営が行われている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

<p>スポーツ健康学部の運営については、学部長、主任、副主任によって、執行部が組織され、その執行部とコース長による教務委員会が設置されている。また、教授会内規を整備し、規程に則った運営が適切に行われている。</p>

III 2018年度中期・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	2018年度から始まった新カリキュラムの質保証に努め、現在の1年生が卒業年度を迎える2021年度には全学年において質の高いスポーツ健康学の学びを提供する。
	年度目標	学生モニター制度のグループインタビューによって浮かび上がった事項を順次解決する。100分授業

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		を含めた新カリキュラムへ移行することで教育効果を高める。
	達成指標	過去 5 年間の GPA を比較し向上されている場合は新カリ変更の効果が著明と判断する (S 評価に該当)。または差がない場合には、スムーズに移行されている過程であると判断する (A 評価に該当)。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	各教員が、学生の学習意欲を高めるための工夫に取り組む。学部教育の集大成である卒業研究(演習Ⅲ)履修をとおして創造性教育を推進する。
	年度目標	授業相互参観、オンデマンド授業など学習意欲を高めるための工夫を推進する。卒業研究履修者を増加させる。
	達成指標	授業相互参観、オンデマンド授業、リアクションペーパーなどの導入数をカウントし、カウント数の増減で効果を判断する。卒業研究数をカウントし効果を判断する。また学生アンケート結果を参考にし、肯定的意見と否定的意見を比較しこれを指標とする。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	2018 年度から開始された新カリキュラムおよび 100 分授業移行後の教育効果を測定し評価する。
	年度目標	GPA 平均、習熟度テスト、TOEFL 平均値の向上を目標とする。
	達成指標	科目全体では GPA、必修科目の習熟度テスト、外国語学力では TOEFL 得点で判定する。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	アドミッションポリシーにもとづいた入試制度を準拠し、それぞれの入試制度で定められた受け入れ数を満たすよう努力する。特に留学生の募集人数である各学年 2 名を満たすよう努力し SGU を推進する。
	年度目標	それぞれの入試制度の募集人数を満たす合格者数となるよう努力することを年度目標とする。
	達成指標	それぞれの入試制度で決められた受験者数と入学者数を比較することで達成度を判定する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	学部の教育水準を保つための規定教員数を恒常的に確保する。
	年度目標	年間を通して学部専任教員数が維持されていることを年度目標とする。
	達成指標	年度末の学部専任教員数が維持されていることを達成指標とする。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学生の抱えている悩みや問題を早期発見し解決に導けるよう支援する体制づくりを整備する。
	年度目標	オフィスタイムを明確化、ゼミ活動を通しての支援、相談窓口を明示する。
	達成指標	学生相談数をカウントする。また、問題解決事例報告を把握する。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	ボランティア活動など社会貢献を通しての気づきの教育推進
	年度目標	社会貢献・社会連携に関わっている学生を把握し増加させる。
	達成指標	ボランティア活動など社会貢献活動数をカウントする。
【重点目標】		
今年度入学してきた新カリの学生たちが卒業するまでの 4 年間 (2018-2021) の質保証を中期目標とし、「新カリへの移行」を年度目標したい。これらの目標の達成のためにシラバスあるいは年度計画 (年次表) の課題を着実に実施していく。		

【2018 年度中期・年度目標の大学評価】

<p>スポーツ健康学部の 2018 年度中期目標について、「2018 年度から始まった新カリキュラムの質保証に努め、現在の 1 年生が卒業年度を迎える 2021 年度には全学年において質の高いスポーツ健康学の学びを提供する」とあり、新カリキュラムと 100 分授業移行後の教育効果を測定し評価するとなっている。</p> <p>年度目標として、GPA 平均、習熟度テスト、TOEFL 平均値の向上を目標指標とするなど、教育成果を具体化、客観化する取り組みは、他学部にも参考となる内容であり、成果を期待したい。新カリキュラムが開始されていることもあり、その点でも、内部質保証の体制や取り組みをさらに強化、具体化することによって、今後の教育の質のさらなる維持と向上が図られることを期待したい。</p>

【大学評価総評】

<p>スポーツ健康学部は、卒業生アンケート調査報告書等からも、学部満足度が高く、教育内容やカリキュラム、設備に関</p>
--

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

する満足度も高く、少人数による質の高い教育が展開されていることが示されている。

但し、この3年間、定員超過傾向にあり、適正な教育環境を維持するためにも定員管理の改善を期待したい。また、健全な状態を維持し、発展させていくためにも、PDCA サイクルを実質化していくことが重要と考える。昨年度、3コースのコース長が質保証委員となり、質保証委員会を開催している。質保証委員会では、オンデマンド授業の遅れや留学生受け入れの遅れが指摘されており、その点では、PDCA サイクルが有効に機能していると評価できる。2018年度から新カリキュラムが開始されていることもあり、その点でも、内部質保証の体制や取り組みをさらに強化、具体化することによって、今後の教育の質のさらなる維持と向上が図られることを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。